

平成26年度 第2回生駒市子ども読書活動連絡調整会議 会議録（要約）

日 時： 平成27年2月3日（火）午後2時～

場 所： 図書会館 第二研修室

【参加者】 岩崎れい、平井富久子、森田桂子、上西均、奥本恵、吉尾典子

（欠席） 森岡伸枝、島谷佳子、真銅宏、吉村茂、糸田恵美子

【事務局】 向田真理子、平澤佐千代、春名己容子（以上図書館）、福山清美（生涯学習課）

1 開会

2 案件

（1）平成26年度事業報告について

◎第1回会議（7月18日）

- ・生駒市子ども読書活動連絡調整会議の活動経緯の説明
- ・近江兄弟社学園図書館及び近江八幡市立安土図書館視察（案）の検討及び実施決定

◎近江兄弟社学園図書館及び近江八幡市立安土図書館視察（10月24日）

◎視察参加者の感想

- ・木造建築が素晴らしい。コンクリートの校舎と比べて、育まれる子どもたちの精神面に違いが出てくるのではないか。
- ・初めての体験で目から鱗が落ちる思いがした。いい経験になった。読み聞かせをする意味が明確になった。帰って早速『ちいさなねこ』を子どもたちに読み聞かせた。
- ・視察で得たものを今後、各々の現場で活かしていきたい。

（2）「生駒市子ども読書活動連絡調整会議5カ年のまとめ 平成22～26年度」と今後の会議運営について

◎事務局案に各参加者からの意見を反映した改定案について説明。

⇒改定案に了承を得たので、来年度以降に関係機関に配布できるよう手続きを進める。

（3）平成27年度事業計画（案）について

◎市内学校図書館の見学

平成25年度に上中学校、あすか野小学校の図書館を視察した際、市内の他校の図書館も見学したいという声が上がったため、小・中各1校の見学を事務局から提案。

⇒候補校は校長会等で諮って頂く。実施時期は10月か11月で事務局で調整。

◎幼小連携事例の発表

昨秋に俵口幼稚園の年長クラスの園児が、俵口小学校の図書館を訪れ、学校司書から絵本を読んでもらう等の試みが行われた。今後の幼小連携を考える契機として、この件について、俵口幼稚園の吉尾園長から発表して頂くことを事務局から提案。

⇒吉尾園長と参加者の了承を得たため、来年度会議上にて時間を設けることとする。

◎その他の意見

《学校司書》

- ・学校司書の配置は、昨年から週2回になっているが、学校司書と司書教諭の連携がうまくいけばなおよい。
- ・教頭先生のコーディネートの下、司書教諭が主体となって進められるとよい。
- ・司書教諭は授業があるので、学校司書と連携をとることが時間的に難しい。それでも熱心に連携した結果、子どもが図書館にくるようになった。学校司書はその子どもたちへの対応に追われる上、蔵書の管理等もあり、遅くまで頑張っている。
- ・理想は学校司書の常駐だが、週2日、3日と勤務日が増えていけばよい。
- ・昼休みにも図書館を開けている。図書委員担当の教諭とも連携して、図書委員が貸出手続もする。学校司書が新しい本の紹介を掲示、図書ボランティアが季節の飾りや貼り物の作成と分担している。ボランティアのコーディネートは教頭が行っている。
- ・学校司書は教諭ではない立場であり、その業務の範囲については、他の先生方の理解が必要。

《読み聞かせ》

- ・字が読めるだけでは本は読めない。「自分で読んでね」では、読書ばなれに繋がる。子どもに本を読んであげることが大事。自分では読めない子も結構多い。読んでもらうことで本が好きになる。子どもが手に取らない本を周りの大人や司書が選んで手渡すなど、担任の先生の役割が大事。小学校から中学校への進学時もハードルが高い。忙しくなって本を読まなくなる。小6で読む子と読まない子に二極化する。中学入学時に子どもの意識をどうやって繋ぐか。部活も始まり忙しい中、5分でも10分でも空いた時間に本を読む気になるかどうか。小中連携は幼小連携以上に難しい。新しい取り組みが出来れば、先進的事例になる。
- ・読書週間に全学年の全クラスで読み聞かせをしている。担任の先生以外が教室で読み聞かせをしている。高学年はブックトークも有効。

《図書ボランティア》

- ・保護者全員に「ボランティアしませんか」とお手紙を出している。貼り物を担当してもらっている。材料は学校で用意している。学校によっては読み聞かせのボランティアに入ってもらっているところもある。
- ・保護者のサークル的な活動として読み聞かせをしてもらっている。「えほんのへや」を子どもたちがホッとできる空間にしたいが、教諭だけでは運営が難しい。ボランティアに入ってもらえればうれしいのだが。
- ・ボランティアの仕事内容は、過去には本の装備、平成26年にはパソコン入力、今は教室の掲示物の作成等、状況に応じて変わってきている。

《朝の読書》

- ・中学校では、総合的な学習の時間があり、以前は朝の読書の時間に充てていたが、朝読は総合的な学習の主旨から外れるということで、教育課程外または授業内でしか認められなくなった。静かに一斉に読書をする朝読の時間はすばらしい。荒れた学校も朝読で落ち着く。学校司書のいる日は図書館を開けている。アンケートを取って、生徒が入れてほしい本を聞くようにしている。来年からは開ける時間を増やしたい。
- ・兵庫県の私学の図書館には、学校司書が4人いて、2クラスが同時に使えるスペースを持っているところもある。また、子どもが図書館に来てくれるのを待っているだけでは利用が伸びないので、給食室に本棚を置いて、食べ終わった子が本を読めるようにしている例もあるが管理が難しいだろう。出来ることを探っていくべき。
- ・小学校に学級文庫があり、給食の時間に食べ終わった子が読んでいる。月曜日は朝の読書タイムに、火木金は国語の時間に本を読むようにしている。学年によっては、公共図書館から借りた本を学級に分けて置いていることもある。